



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「プロジェクト再開への助走」号

2016年10月19日 (Vol.33)

“活動の再開、長く続いた紛争よりも怖かった…エボラ出血熱流行に見舞われたシエラレオネの復興・開発を支援する！”

エボラ出血熱の流行により、終息迄に感染者数 14,122 人、死者数 3,955 人（出典：WHO 2016 年 3 月）もの被害が生じたシエラレオネで、2014 年 8 月に中断を余儀なくされていた、「シエラレオネ国カンビア県地域開発能力向上プロジェクト」が再始動しました。2015 年 11 月に、WHO 及びシエラレオネ政府によるエボラ終息宣言が出されてから約 3 ヶ月後の、2016 年 2 月から「エボラ復興」を視野に入れた現状確認・復興ニーズ調査を実施しました。



首都フリータウン：車の混雑は変わらない



落ち着きを取り戻した農村集落 (Port Loko 県 Makalu 村)

地方自治体や議会および地域住民への聞き取り調査では、流行していた際にはエボラ出血熱に関する情報・知識が不足しており、保健機関を受診した者や救急車で搬送された者が生きて帰らなかった（遺体も戻らない）ことから「保健センターがエボラ出血熱病原体を注射する」という間違った情報が流布し、人々が大きな混乱に陥っていたことがわかりました。妊婦が医療機関に行かずに屋外の草むらの中で子供

を出産し（医療従事者や家族等周囲の者も出血による感染を恐れたため）、亡くなってしまった例なども耳にしました。

「朝から救急車のサイレンが鳴り続けていて、その音が忘れられない。目に見えないだけに、紛争より恐ろしかった。」という話には、返す言葉が見つかりませんでした。

また、感染拡大を防ぐために政府が出した外出禁止令や市場の閉鎖命令などにより農業などの収入創出活動が停滞し、食糧調達もままならず、全学校が休校し、道路も維持管理されないなど、社会経済状況全体の悪化は我々の想像を超えていました。



コミュニティ自らがお金を出し合って校舎建設（左）、ヘルスポスト脇に設置された医療用消耗資材焼却炉（右：エボラ期に国際 NGO の協力で多くつくられた） [Port Loko 県 Mamaliki 村付近]

現在、CDCD プロジェクトでは、これらエボラの影響調査や復興に向けたニーズ情報の分析と解決のための活動について、プロジェクトのカウンターパート機関である地方自治体にあたる県議会職員、県の各セクター（農業、保健、教育、社会福祉、水資源など）と協議し、エボラ復興と県開発計画への提言をまとめています。

激しい紛争が終結した 2002 年以降のシエラレオネの社会経済復興・開発への歩みを止め、大きな後退を強いたエボラ出血熱。しかし今、国家ポスト・エボラ・リカバリー戦略にのっとった活動やモニタリングが始動し、徐々に回復の兆しをみせています。CDCD プロジェクトで取りまとめた計画は、この国家リカバリー戦略を踏まえたもので、3 年毎に作成される県開発計画の復興支援版として、位置づけられます。今後は、この計画に基づいて、エボラ復興のパイロット事業実施計画を現地関係者が協議し、実行するプロセスを共有し、必要な際にプロジェクト専門家チームが助言していきます。

以上